金属製部品製造工場として活用

兵庫県 養父市

スナップリング（止め輪）

〈旧浅野小学校〉

㈱ヤブ・ハシマ

業種	製造業
用途	工場
建築年月	昭和51年3月
規模	延床面積2，401㎡ (校舎・体育館)
運営開始時期	平成24年12月
改修費用	約2億円

施設の概要

平成24年12月操業開始。体育館はスナップリング（止め輪）を製造するプレス場として、校舎は、製造施設のほか事務室や従業員用の食堂、休憩室として活用している。「地域と密着した工場」という理念のもと、校庭や校舎の一部を地域住民に貸し出し、スポーツやコミュニティ活動の振興にも活用している。

廃校活用までの経緯

養父市では、平成18年度より、雇用の創出による地域の活性化を図るため、廃校を活用した産業立地を進めており、㈱ヤブ・ハシマで４例目となる。（平成29年度現在６校の廃校に企業が進出）

本市は、これまで廃校活用の事例や募集など「みんなの廃校プロジェクト」を通じて紹介しており、この情報を閲覧した企業等の問合せが年々増加傾向となっていた。

そのような中、㈱ヤブ・ハシマは、事業の拡大と効率化を目指し、事業用施設を探しており、廃校を活用することを注目し、高規格幹線道路のＩＣに近い当廃校に進出を決めた。

学校は地域のコミュニティを形成し、廃校となっても地域の思い入れは強い。このため地元住民に対し説明会を開催し、当企業の地元からの雇用やこれまでどおり当施設の利用など、地域との共存共栄の事業運営に賛同が得られ、進出の運びとなった。

廃校を活用するメリット

学校施設は、５，０００㎡から２０，０００㎡と規模もさまざまで、用途に合わせて施設の有効活用が図れることにより、操業までの初期コストが低額に抑えられるなどのメリットがある。

また、廃校となった学校を活用することの企業イメージの向上・ストーリー性などエンドユーザー（商品利用者）へのＰＲ効果が高い。

体育館に並ぶスナップリングを作る大型機械

長閑な田園風景の広がる中山間地域

Before After

校舎の１階部分と体育館にかけて、製造ラインを確保。体育館は高い天井高と柱のない広いスペースを活かして、大型製造機械を設置するなど、作業の効率性を考慮したレイアウト配置となっている。

自治体の声 ： 廃校を活用した産業立地は、雇用の創出や地域経済の活性化が図られる。また廃校となった今もなお地域のシンボル的存在である小学校に明かりが灯り、今も変わらず地域コミュニティの場となっていることの意義は大きい。